一、ベルマーク運動の成果（ユネスコ協会連盟より感謝状）

児童会専門委員会の一つ赤十字委員会（委員長中塚健史君）が中心となってベルマーク集めを行っています。今までの成果としてホッピング、さか上がり補助器、たけうまなど、子供たちの健康・体力増進に役立つものをいただき大いに活用しています。これらの成果とは別に、今回下にあるような感謝状が届きました。

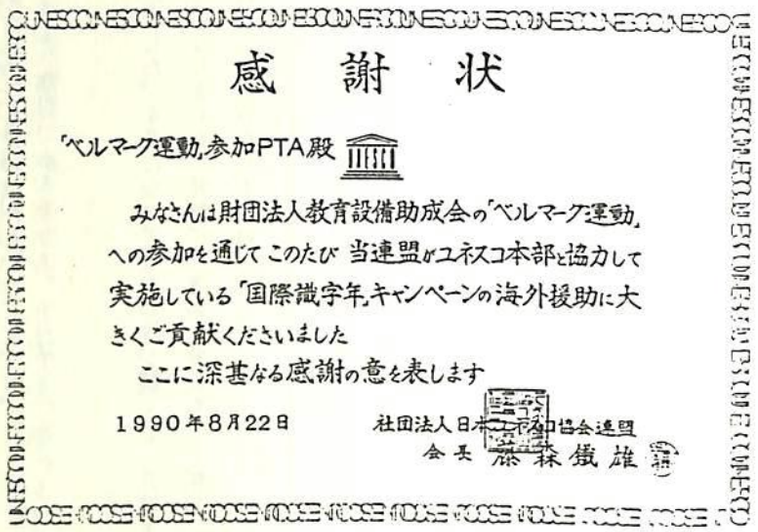
「国際識字年」キャンペーンの海外援助に大きく貢献したということで、感謝状がいただけたのです。

> 一九九〇年を国際識字年と定め、識字について世界の人々の啓蒙と教育、識字率の向上を推進することとした。

識字・・・文字の読み書きができるようになること。

世界の成人（15才以上）人口の四分の一にあたる八億八九〇〇万人の人達は、文字を書いたり読んだりすることができないそうです。

貧しくて学校に行けなかった人達が世界にはこんなにたくさんいる



感謝状

「ベルマーク運動」参加PTA殿

みなさんは財団法人教育設備助成会の「ベルマーク運動」への参加を通じてこのたび当連盟がユネスコ本部と協力して実施している「国際識字年」キャンペーンの海外援助に大きくご貢献くださいました

ここに深甚なる感謝の意を表します

1990年8月22日

社団法人日本ユネスコ協会連盟
会長 森 儀雄

のですね。私たちが行っているベルマーク運動は、これらの人達を援助するためにも使われたということです。

春が来た

▼＜なかよし池＞

さむい冬の間、なかよし池の魚たちは池の底でじーとして春を待っていました。4月になって暖かい日が続くと、見違えるほど魚たちの動きが活発になってきました。そして、えさもよく食べるようになりました。元気に泳ぎ回る魚たちに、新しい仲間もふえました。3年生の女の子が、タワシでごしごし池をそうじしてくれました。魚たちもうれしそうでした。

大きなくろいこい、大きなにしきごい、小さなくろいこい、小さなにしきごい、ドイツごい、ふな、かめ、

▼＜サンクガーデン＞

上地小のシンボルであるサンクガーデンのけやきも、ようやく若葉がしげってきました。四月はじめ、学校にあるけやきは、黄緑色の若葉がしげっているのに、サンクガーデンのけやきはまだ冬の姿のままでした。みんな心配そうにながめていました。四月十日すぎになって、やっと若葉が出始めました。みんな、ほっとしています。しかし、他のけやきとくらべて心なしか、やや色が弱々しいのが気になります。元気にたくましく育ってくれることを願っています。

▼＜アメリカハナミズキ＞

体育館の南側に六本のアメリカハナミズキの木があります。入学式のころはあまり目立たなかった木ですが、今はピンクのきれいな花をつけて、学校を訪れる人の目を楽しませてくれます。この花のつくりは、ちょっと変わっています。調べてみるとおもしろいですよ。

（菅沼　剛）

二、ボア　タージ（今日は）

―ブラジル三世の青年が来校―

松原　晄三

この四月から、午前七時半頃、岡崎セイコー北の地下道付近でよく見かけていた青年が二人いました。どこか、日本人離れした感じがする若者です。

初めのうちは、軽く頭を下げて挨拶を交わす程度でした。それが、二四八号線より西の子どもたちの交通安全指導に巡回する度に、よく顔を合わせることが重なるうちに、声をかけ合うようになってきました。

「コンニチハ」

「オハヨウゴザイマス」

発音やアクセントのなまりから、おや、やっぱり日本人ではなかったかと気づいたのは六月になってからのことでした。

「ハセガワです」

「ニッポン語、ハナセマスカ。」

「ワカリマセン。」

出勤前の様子で、あまりゆっくり話し込むわけにもいかず、会話はあまり順調に進みません。それでも、やっとのことでブラジルから、上地自動車学校北側にある「岡崎セイコー」に働きに来ていることが分かりました。

「ナマエ？ハセガワ　セルジョ　デス。」
「私は、そこの小学校のティーチャーです。」
セルジョーは、にっこり笑い、これで自己紹介が終わりました。それでも、まだ一人います。見たところ、彼よりは年下のようです。
「ワタシハ、ハセガワ　ヒロシ　デス。」
二人の関係が知りたくなって、「キョウダイ？」と問い直しました。しかし、これが、なかなかの難解です。何度かの会話の末、やっと通じました。
「キョウダイ　ノー。チチガキョウダイ。」
「ああそうか、それを日本ではイトコと言います。」
「イトコ。アア、ワカリマシタ。アリガトウ。」
こんな、やりとりが続いたある日、素晴らしい女性の「助っ人」が現われました。

二人のアパートを訪問

その「助っ人」を紹介しましょう。
同時刻によく顔を合わせていたお母さんで、上地町上明寺にご在住の村松秀子さんです。
「私も同じ岡崎セイコーで働いています。あの三世の子たちは、本当に真面目に働いていますよ。もっと詳しい話をご希望でしたら、私からも依頼してあげますが。」
とのご厚意を頂きました。

こうして、本校長坂信一先生と一緒に七月五日の夕方、彼らの住むアパート「ニューシーズサワ」を訪問することになりました。
二人は、村松さんと待っていてくれました。持参した地図を広げながら、出身地のブラジル中央部「ロンドニア」の様子にしばらく話がはずみます。
「ウエジトオナジグライ　イイトコロデス。デモ　ブッカハタカイシ　クラシハ　クルシイ。」
「ニッポンハ　イイデス。ナンデモアルシ　クラシモ　イイトオモウ。」
「ウエジハ　マチモ　アタラシイシ　ドウロヤタテモノモウツクシイ　ヤマモアル　イケモアル。」
「ヒトモ　アンシン　ミナショウジキデ　シンセツ。」
ブラジルはポルトガル語ということで、会話は深いところまでは進みません。あとは、身振り手振りに、彼らが手にしていた「ポ和辞典」にたよるしかありません。
時折、村松さんが、大きな瞳を輝かせて会話に加わって下さいました。

左からヒロシ君・秀子さん　セルジョ君

「ハセガワ」従兄弟も上地小学校を訪ねる

「今日は、ありがとう。この次は、私たちの上地小学校を訪ねてください。」
長坂先生の早速の招きに、二人は大きくうなずきました。
「セルジョ　学校に来たらって。」
助っ人の村松さんが、二人の肩に手をかけて語りかけています。
「あしたでもいいですか。土曜日で会社が休みなんです。」と、とんとん拍子に話が決まってしまいました。
「カイシャカラ　マッスグ　イッタトコロノ　ガッコウデスネ。」
「ジュウジマデニ　オジャマシマス。」
「そうすると、南門から入ってみえるわけですね。お迎えをします。ぜひおいで下さい。」
「そのポ和辞典をお忘れなくね。」
夕暮れが近づき、明くる六日の再会を約束してアパートを後にしました。

ムイト　プラゼー（初めまして）
ボア　タージ（今日は）

七月六日（土）午前十時十分、南門に出迎えていた長坂先生の両手が上がりました。二人が来校した合図なのでしょう。
「やっぱり来てくれた。それじゃあ、先ず校長室でお話しよう。」
校長先生の案内に二人は、笑顔で辞典を開き会話を始めました。
「ムイト　プラゼー」（初めまして）

「セルジョとヒロシです。」
「シマダです。」
冷たい麦茶を進めると、
「コレ　ムギチャ　カイシャモ　オナジオチャ　オイシイデス。」
と、ぐっと一息に飲み干しました。やや緊張気味だった雰囲気が、すっとほぐれていきました。
学校には「なかよし池」や「ふれあい牧場」もあるから、案内しましょうかと、会話がだんだん具体化していきます。二人の表情から、同意の返事と解釈して、早速外に出ました。
「コレ　コイ　アマゾン　モット　オオキイサカナ　イル。」
「コレト　オナジコイ　ブラジルニモイル。」
「ヤギ？カワイイ。」
セルジョ君が、ヤクシマヤギに草をやりながら、頭を優しくなでています。もうすっかり、上地小学校がお気に入りの様子です。

「明るい子たち、大好き」

勉強中の子どもたちに会いたいということで、六年生の教室に案内しました。一組では、太田先生が黒板に三角形の図形を書き、算数の学習中です。
「今日は。」

早速、子どもたちの元気な挨拶が返ってきました。
「ボア　タージ。今日は。」「スウガク　ガクシュウ?」
板書を見て、すっかり内容を飲み込んでくれたようです。
二組でも三組でも、名倉・竹平両担任や学習中の子どもたちと仲良しになり、カタコトの会話が続きました。
「ウエジノコ　アカルイ　ダイスキ　デス。」
「明日は、グランドでサッカーをやります。よかったら、一緒にあなたもやりませんか。」
と、さすがにサッカー部顧問の名倉先生です。
「ボク、サッカー　スキデス。ホントニ　イイデスカ。」
言葉はうまく通じませんでしたが、心はしっかり通い合えた様子です。
学校への訪問が一段落した頃、ちょうど子どもたちの一斉下校の時刻になりました。校長先生も、折角の機会だから、全校の子どもたちに紹介しようとの助言で、二人に指揮台に上がって頂きました。
「キョウハ　アリガトウ。」
「アテローゴ。」（さようなら）
真夏の運動場にブラジル語の挨拶が心地よく響きました。

6年生の教室を訪問するヒロシ君とセルジョ君

三、第2回上地学区親子夏祭りに約三〇〇〇人

くもり空を吹き飛ばす
鼓笛隊とバトン部の演奏パレード

十八時ちょうど、夏祭りのオープンです。上地小学校の鼓笛隊とバトン部の演奏パレードが始まりました。
今日は朝から、いつ雨が降ってきても不思議ではないという、心配な天気でしたが、みんなの気持ちが通じたのでしょう。
この頃、参加者はすでに四百名以上。演奏パレードが終わると食品バザー、ゲームコーナー、夜店の開始です。特にゲームは十円で楽しめ、景品付きですので、子供たちにとっては、たいへん魅力のあるものです。しかも、どのゲームもPTAのお母さんたちのアイディアがいっぱいです。お母さんがたは、二か月前からゲームの内容を考え、実際にやってみては、作り上げてきました。
夜店から夜店へ、うれしそうに歩いている子供たちの声を聞きながら紹介してみます。

夏祭りの始まり　六年　中嶋ちひろ
私たち鼓笛部は今年、夏祭りに出ました。上地っ子として元気よくできたと思います。上地っ子が見守ってくれたし、お母さんがたもいっしょに聞いてくれました。
そんな中で演奏できたことを、とてもうれしく思っています。そして、夏祭りを開催してくれた人にも感謝しています。
私たち鼓笛部は、これからも夏祭りの伝統としていい演奏を続けていきたいと思います

バトン部でよかった　六年　神谷美江

私たちバトン部は、夏祭りにむけて七月から三曲のおどりを練習してきました。

六時からおどるために、四時から最後の練習を、鼓笛部の人たちと必死に合わせました。

柴田先生の表情が真剣になって、私たちを見ています。うまくやるこつは、目があっても平気な顔をすることです。

そして、あっという間に六時。こてきの音に合わせておどり始めました。お客さんもたくさんいました。ドキドキ心がゆれ、緊張して間違えてしまいました。先生は「みんなそろってたからよかったよ。」と、やさしくおっしゃいました。バトン部でよかったと思っています。

皆さんの協力による夜店いろいろ

岡崎医療刑務所による「上地焼き」は、昨年度とても好評で、途中で品物を追加したほどでした。今年も六時少し前から販売開始です。ふつうの焼き物の約半分の値段です。手作りで味のあるものばかりでした。

学区総代会と社教委員会・子供会は「金魚すくい」です。今日の朝仕入れたばかりのピチピチした金魚です。生き物の大好きな四年生の宇野君と池田君は一番乗りで券を買いました。

「金魚すくい」は見ているとかんたんそうですが、やってみるとすぐに紙が破れてしまってうまくいきません。熱中した子たちは、何回も何回も挑戦して、三十ぴき以上もビニール袋に入れていました。家の金魚ばちはだいじょうぶでしょうか？

学校の若い先生たちも、負けるものかと「かき氷屋さん」を始めました。

「冷たいかき氷だよ！」

松坂先生たちの大きな声につられて、長い列ができました。氷は冷たいですが、かき氷屋さんたちは汗びっしょりです。暑い夏に冷たい氷、いいですねえ。

ゲームコーナーはどこもならんでいます

五年鈴木康生君、小嶋浩和君、弟の佳隆君の三人がとうもろこしとポカリスエットを持って、楽しそうにやって来ました。

「ゲームはどうだい。」「ぼくはキックボールが一番良かった。部活がサッカーで、ボールがけれてうまくはいったので、うれしかった。それからね、バザーはフランクフルトが好きだよ。」

なるほど、さすがサッカー部の鈴木君です。小嶋浩和君は「風船つりが気にいった。いつもは四個ぐらいつれるんだけど、今日は、風船の引っかけるところがうまく浮いてなかったから、二個目が途中からぷっちんと落ちちゃった。」

と言いながらも満足そうでした。見ると、体育倉庫の前に『ふ・う・せ・ん・つ・り・ゲーム』と、かんばんが出ていました。係の委員さんの声につられて、お父さんやお母さんに手を引かれた小さな子も、かわいい手を風船に伸ばしています。

すぐとなりでは、『的当てゲーム』です。手作りのかわいいアンパンマンとケロケロケロッピーのまとです。小さい子にはぐっと近くで大サービスです。

なかなかむつかしいぞ
輪投げとボーリング

輪投げはほんの二メートルほど先のびんをねらうのだけれど、意外とむつかしい。きょりは学年によって少しちがいます。一度に三回やれますが、なかなかはいりません。しかしパーフェクトの子もいましたよ。思ったよりむつかしくて十人だけでした。おめでとう。

となりでは、ボーリングをやっています。高学年の子供に聞くとたいていの子がボーリングの経験者です。かんたんにピンが倒れると思って、いつものとおりに、えい、やあとボールを投げるとうまくいきません。それはボールがはずんでしまうからです。はずれてもいいんです。これは何と言ってもゲームなのです。

途中でＰＴＡ会長・学校長・総代会長から「親子で夏休み後半のひとときを楽しめる機会にしたい。」「皆さんの協力により、手作りの夏祭りとなった。」「来年は学区、学校創立十周年にあたる大切な節目になります。よろしくお願いします。」などと、あいさつがありました。

野外映画会もすごい人気です

運動場で行き合う子供達の顔は、どれも生き生きしています。お父さんも、おばあちゃんもみんな元気そうです。予定より少し早めですが映画が始まりました。丸太のいすにこしかけて、のんびり映画を見ているのは気分がいいものです。

「竹平先生が作ってくれたメロンアイスです。」

といって、おいしそうに食べている三年生の小須田加奈さんに聞いてみました。

「映画はどれが一番良かった。」

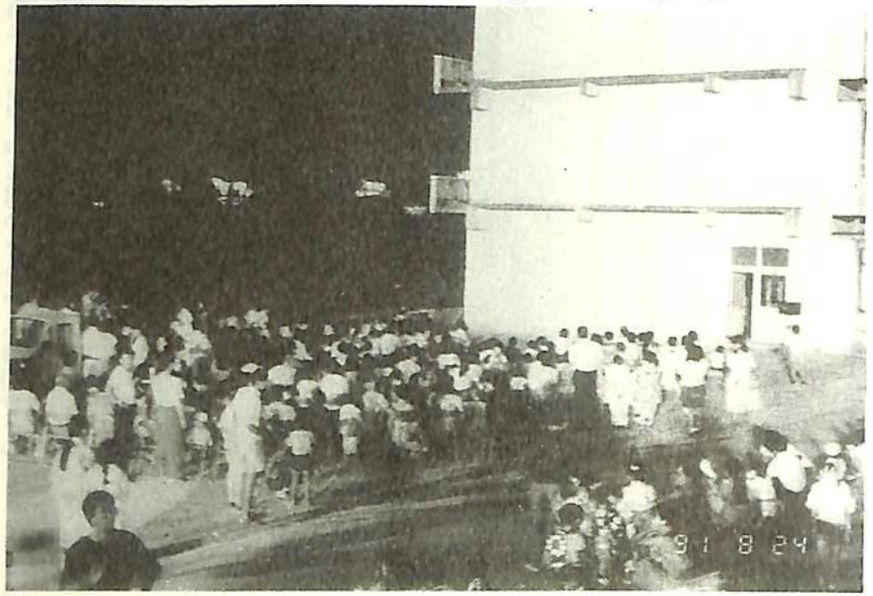
「いっぱいあってわかんない。でも、ハチ公物語がいい。」

「どんなところが良かった。」

「ちょっと悲しいところが・・・。飼い主をさがして遠くまで行くんでしょ。そういうところがよかった。」

そろそろ八時になります

カメラを持って会場を歩いているうちに、もうじき八時です。



バザーの中には、売り切れが出てきました。八時からは野外レクの子たちが『火舞い』をやる時間です。野外レクの部員たちは、はじめちょっとはずかしそうだったけれど、だんだん真剣な目つきになりました。

成功、夏祭りの火舞い

六年　海藤　健児

ぼくは、今年野外レクレーションクラブに入った。杉本先生が、火舞いをやると言った時、おもしろそうだなあと思った。家に帰って、お母さんに火舞いの棒を貸してもらってやってみた。

サンクガーデンで、窓に写る自分を見たり、友達に見てもらったりいっしょうけんめい練習した。ぼくは夏祭りリーダーになったから、見に来てくれた人に、すごいなあと言ってもらえるようにやってきた。

夏祭りの今日、みんなの前でやった時、（今まで一生けんめい練習してよかった。）と思った

わずか三分間でした。部員たちは満足そうでした。火舞いをじっと見ていたゆかた姿の六年生の鈴木由香里さんは

「すてきだった。」

と言って、拍手をしていました。

このあと、すぐに『盆踊り』です。炭坑節やホームラン音頭が運動場に流れます。今朝早く、総代さんたちの手によって作られた、やぐらの上にはもとのＰＴＡの役員さんが、似合いのゆかた姿で踊っています。途中から子供たちもやぐらに上り、いっしょに踊りました。ここでちょっと一息、景品のくじ引きです。今年のくじ引きはゲーム形式です。自分の名前を書いた紙を丸めて、玉入れをします。うまく入った中から抽選です。放送を聞いていると、犬塚智士君が当選していました。犬塚君は七月まで上地小学校でしたが、幸田町に引っ越していきました。聞いてみると、六時過ぎから家族五人で来てくれました。賞品の図書券でジャンプを買うそうです。

すばらしい花火をありがとう

心配していた雨は、夏祭りの熱気によって吹き飛んでいきました。いよいよラストを飾る若松屋さんによる花火です

まずは『乱玉』。真上にきれいな光のすじが上がります。あちこちから

「わあ、きれい。」

という声。続いて『滝の仕掛け花火』です。点火されたとたんに火が走り、仕掛けが浮かび上がります。しばらくしていっせいに、花火が吹き上がりました。

そしてまたもとの闇に・・・・。光の芸術とはよく言ったものです。

こんなに近くで花火を見た人は、ほとんどないでしょう。六年生の久野さんも近くで見れて感動していた一人です。

昨年に引き続き大盛況だった第二回の『親子夏祭り』が無事に終わりました。

これもＰＴＡはもちろん、ひとえに学区総代会・社教委員会の皆様の協力のおかげです。

（長坂　信一）

わあ　きれい

四、悲しい事故を教訓に

九月四日午後三時四十分、安城消防署より事故の第一報が入りました。

「矢作川堤防、身長一四十センチ、名前は健太郎、呼吸停止状態。」

四年生の鈴木健太郎君が事故に遭遇しました。家族、市教委へ連絡を入れるとすぐに校長先生・教頭先生・長坂先生・松山先生・鶴田先生が安城の更生病院へ駆けました。家族、親戚、先生たちの願いもむなしく、四時五分、健太郎君は息を引き取りました。

何とも悲しい結果になってしまいました。ご家族の方の嘆きはいかばかりかと思うと、身につまされます。

翌五日の第一時は、臨時の全校集会。校長先生から、悲しい事故の報告、そして黙とう。交通事故の恐ろしさ、命の大切さを訴えるお話を聞く全校の児童の表情も悲しげでした。

六日十一時より、しめやかに葬儀がとりおこなわれました。

同級生全員が葬儀に参列し、代表として秦野晋也君がお別れの言葉を述べ、最後のお別れをしました。

出棺の時には、同級生のほか、同じ通学団の子、水泳部の子たち、さらに授業を終えた先生方も駆けつけ、健太郎君を見送りました。

「あんたたち、事故に気をつけてね。死んじゃあだめだよ。」

と子供たちに涙ながらに訴える健太郎君のおばあさん。

「健剛禅童子」となり天国へいった健太郎君のご冥福を祈り、霊柩車を見送りました。

児童代表お別れの言葉

いつもにこにこ笑っていた健太郎君。

今でも、授業中おもしろいことを言っては、ぼくたちを笑わせてくれた元気な声が、耳のおくからはなれません。

放課になれば、レインボウタワーでおにごっこをしたり、運動場で野球をしたりもしましたね。

そんな、健太郎君が、九月四日、交通事故でなくなってしまうなんて、信じられません。

今でも、すぐそこから「はたのー」と言って、おどかしにくるんじゃないかと思ったりもしてしまいます。

ほんとうに天国へ行ってしまったんですか。

健太郎君は、ぼくたちに命の大切さを教えてくれました。

ぼくたちは健太郎君のことをぜったいわすれません。

上地小学校で、力いっぱいがんばるつもりです。

ぼくたちを見ていてね。

約束だよ。

とてもつらいけど、さようなら。

四年一組　秦野　晋也

五、上地小同窓会発足

上地小学校では来年、創立十周年を迎えることになり、その記念事業の一環として、また、卒業生の声もあり、同窓会を発足することになりました。

その手がかりとして、八月四日、第一回同窓会の幹事会（各卒業年度のクラスより男女一名ずつ選出）を開催しました。

この幹事会で決まったことをお知らせします。

・同窓会名簿作成のための同窓生の現在の住所と電話番号の確認。

・同窓会会長　貫　宏光
　副会長　永坂　健一
　〃　後藤　和美
　書記　西村八千代
　会計　林　房代

・同窓会会則

尚、同窓会総会（創立十周年記念事業の日の予定）に幹事会で決まったことの承認を願うと同時にその日が上地小同窓会発足の日となります。

幹事会へ出席したメンバーも、またそこで決まった会長、副会長、書記、会計さんもみんなやる気いっぱいであることを感じ、よい同窓会が発足することを確信しました。

同窓会総会には、同窓生の多数の参加を期待しています。

六、交通安全教室

菅沼　剛

十月二十二日第四時、校内交通安全教室が開かれました。交通事故の恐ろしさを実際の車を使って勉強しました。勉強した主な点は次の三点です。①車は急に止まれない。（車の制動距離）②車の影が危ない（大型車の影からの飛び出し）③大型車の近くは危ない。（内輪差による巻き込み事故）

乗用車、大型車を使っての交通安全教室は、上地小学校だけではできません。上地自動車学校のご協力をいただきました。普段大人の人を対象にして教えている自動車学校の先生は、子どもたちに良くわかるように指導できるかと大変心配しておられました。担当して下さった上地自動車学校の宮崎先生は、事前に「みんなの安全」の本を研究され、教頭先生、松山先生と何回もうちあわせをされました。また、前日の夜には、校庭に車を持ち込み、当日のリハーサルもしました。上地小の子どもたちに良くわかってもらうために、目に見えないところでもいろいろと準備をしていただきました。

当日は、上地自動車学校の深津校長先生、宮崎先生、中田先生、山本先生、さらに、学区交通指導員の中瀬さん、岡田さん恒川さんもかけつけ指導をしていただきました。また、五区総代の渡辺さん、十区総代の柴田さん、友愛クラブ会長の佐野さんも子どもたちの勉強ぶりを参観していただきました。学区あげての、交通安全に対する関心の高さがうかがわれました。

嶋田校長先生のお話、上地自動車学校深津校長先生のお話の後、宮崎先生の指導で交通安全教室が始まりました。

健太郎君の四十九日、今日は交通安全教室。校長先生がおっしゃったことは、

「自分の命は自分で守らなければいけない。」ということです。

六年　井口　亜希子

初めは①「車は急に止まれない。」です。二十キロ、三十キロ、四十キロ走行する車の制動距離の実演です。あらかじめ、六年生の子たちが予想していた制動距離は、それぞれ五メートル、十メートル、二十メートルです。実際の結果は、七メートル、十八メートル、二十五メートルといずれも予想より上回っていました。車は急に止まれないことを目の前で確認することができました。ダミーを使っての衝突の様子も見ました。あまりの激しさに、悲鳴があがるほどで、いまさらながら衝突事故の恐ろしさを肌で感じました。

四十キロメートルまでいくと、人形は、はねられました。はねられるというより、たたきつけられているようだった。人形がはねられたしゅん間、びっくりして、心臓が止まるかと思った。

六年　別所　直子

決められた場所でブレーキをかけて、何メートルで止まるかを実際にやってもらったのです。なんと時速四十キロメートルで人形とぶつかってしまったのです。その時、私は、自分がはねられたような気がして目をつぶってしまいました。「もしあれが本当の人間だったら死んでいたかもしれない。」と心の中で思いました。

六年　平野　扶美

つぎに、②「車の影が危ない。」です。横断歩道のところで大型トラックが止まっています。松坂先生が安心して渡り始めました。トラックの影から乗用車が急に出てきました。乗用車からは、横断中の人間が全然見えないのです。もちろん、松坂先生は打ち合わせをしてから、実演してくれたのですが、「本当にびっくりしたよ。」と言っていました。横断歩道でも右左を十分確かめることの大切さを学びました。

松坂先生がやって下さった横断歩道でも、あぶないと思うことがいっぱいありました。ふだん使う横断歩道でも危険がいっぱいあると思いました。校長先生がおっしゃった「自分の命は自分で守る。」という意味が、これを見てわかると思いました。

六年　引地　愛

①「車は急に止まれない」車の制動距離を測る交通指導員のおじさん

②「車の影が危ない」横断歩道を渡る松坂先生。トラックの影から車が！

最後は、③「大型車の近くは危ない。」です。運動場に書かれたカーブをトラックが曲がります。左側の前に自転車があります。車からは一メートルほど離れています。カーブを曲がるにつれて、後輪はだんだん自転車に近づいてきます。

曲がり切ったあたりでは、自転車は後輪に完全にひかれた状態になってしまいました。目の前で自転車が無残につぶされてしまいました。内輪差による巻き込み事故の恐ろしさを勉強することができました。

もっともっとびっくりしたのは、自てん車の所をトラックがまがったら、自てん車がたてになって、トラックの後ろのタイヤにまきこまれて、ぐにゃっとまがってしまったのが一番こわかったです。　三年　青井　美和

さいごに、トラックと自てん車を使って、すごいことをしてくれました。それは、トラックがまがる時に、前のタイヤは自てん車にはあたらないけど、後ろのタイヤは当たって、たおれ、ぶにゃってつぶされてしまいました。わたしは、今日見たことにならないようにきをつけようと思います。　三年　野々山すなお

上地自動車学校の先生の熱心なご指導、交通指導員の方々のお世話をいただき交通安全教室を終えることができました。宮崎先生の熱意が子どもたちに伝わり、大変熱心に勉強することができました。

熱心に指導してくださった宮崎先生

七、耳鼻科講話会開く

― 石田正人先生のお話に四十余人の参加 ―

十月二十三日、うえじ耳鼻科の石田正人先生をお招きして『耳鼻科の疾患と子どもの健康』のお話を伺いました。

これからますます増えつづけるのではないかと思われるアレルギー性鼻炎のことを中心にスライドを使ったり、事例を交えたりしての説明に、参加されたお母さん方は熱心に耳を傾けていました。

鼻の病気の本当の治療は住まいの掃除。薬は必要であるが症状をコントロールするにすぎない。

鼻の話なのに、耳の痛い話もありましたが、ユーモアを交え、とても分かり易くて楽しい講話でした。この石田先生の講話の内容は次号で詳しく紹介し、ここではこの講話に参加されたお母さん方の感想の一部を紹介させていただきます。

五人家族の内、三人がアレルギー性鼻炎で、くしゃみ、鼻づまり、鼻水、目のかゆみで悩まされていますので、今日は仕事を休んで出席させていただきました。鼻の複雑な構造、色々な作用などのことを先生の手作りのスライドを使って説明していただき、中には専門用語もあって聞き流したところもありましたが、大変参考になり出席して良かったと思いました。早速、子どもにまかせ切りだった子ども部屋の掃除をし、布団、じゅうたんの下などを丹念に掃除機をかけ、忙しい一日でした。これを習慣付けなければと思います。

大変分かりやすいお話で出席して良かったと思いました。アレルギーの原因のほとんどが家の中の埃やダニということでした。毎日の掃除はもちろんのこと押し入れの中、布団や毛布などに付いている埃やダニは掃除機で吸い取ったり、部屋を換気したりすることで予防し、症状を軽くすることができると言われ、気が軽くなりました。家の息子も春先になると鼻炎で悩みます。花粉の時期が過ぎるまで憂うつな毎日です。早速家に帰って先生の言われたようにやってみました。「労力を惜しんではだめだ。」は、主婦にとってはきついお言葉ですが、まずはやってみようと思います。

常日頃マスコミ等により知っていたアレルギーの知識がいかに浅いものであったかをつくづく知らされる一時間半余りでした。スライドで示された実例には痛感いたしました。私なりに家事をする際、注意を払ってきたつもりでしたのに、まだまだきちんとしなくてはいけないと思い、ゴロゴロ昼寝などしている場合ではないと決意を新たにしました。新製品が紹介されるとついつい衝動買いしてしまう最近、家の中にはその物があふれ、そのために空気の流れを悪くして、アレルギーの源を作っているようです。現在の状態でいかに快適な生活ができるか、この機会に考え直していきたいと思います。

熱心に講話を聞くお母さんたち

このような機会にしか聞くことができないお話で、鼻のしくみなどは始めて知ったことも多く、とても勉強になりました。先生の言われた「アレルギーは、知っていればこわくはない」の一言でほっと救われたように思いました。わが家では、掃除機も新しく買い換えたところで、布団に掃除機をかけ易い部品も付いています。今まで使うことはありませんでしたが、今日の先生の言われたように、布団を干してから裏と表に掃除機をかけました。月に一、二度でよいということでしたので、それくらいなら私にもできそうに思いました。ポイントを押えた掃除をすれば、アレルギーも防ぐことができるということがよく分かりました。

とてもユーモアたっぷりのお話で、一時間半があっという間でした。

今日の石田先生の講話は時間がたつのも忘れるほど興味深く、楽しく勉強させていただきました。全く知識のない私にも大変分かり易く説明されて、鼻のしくみやアレルギーの原因など、いろいろと知ることができました。家の子どももアレルギー性鼻炎で病院のお世話になっています。我が家でも努力していたつもりでしたが、今日の先生のお話を聞かせていただいて、ハウスダストなどの掃除に徹底的に取り組まなければいけないなと思いました。また、改めて鼻の役割の大切さも知ることができました。

よく風邪をひく、鼻血が出る、耳が痛くなるなど、ひょっとしたら鼻の病気がかげに潜んでいるかもしれませんね。やっかいなアレルギー疾患、お母さんの力で治してあげたいものです。

八、十周年バザー開かれる

上地小学校　長坂　信一

十月二十七日（日曜日）、上地小学校では、学区学校創立十周年事業の一つであるバザーが開かれました。

このバザーが開かれるには、本当に多くの方の協力がありました。学区のかたがたのご厚意に感謝します。バザーの品々を出して下さった方はもちろん、直接の係になった方は、名古屋まであるいは静岡県まで仕入れに奔走されました。また、学区内外の事業所からは多大なご支援をいただきました。そのおかげでほぼ目標を達成することができました。

バザーの気運が一段と盛り上がったのは、一週間ほど前からでした。バザーを紹介するチラシができ、全家庭に配られました。通学団の班長さんはポスターを家の外に張ってPRしました。『上地市』用に準備された自転車は職員室に置いてありましたが、毎日子供たちの話題になっていました。今回の活動の中心は子供会でした。各家庭にお願いして品物を集めて回り、大変でした。本当にご苦労さまでした。

若松新・平沢さん原画

当日は各団体からも売り子になってもらいました。上地小学校の第一回卒業生も応援してくれました。

体育館前には、雨天にもかかわらず三百人近い人が列を作り開始を待っています。会場は十時ちょうどに開かれ、体育館は人の波となりました。誰がどこにいるのかも分かりません。レジは五か所に分けましたが、どこも超満員です。大きな袋を両手に抱えて並び、それは大変でした。二十分も過ぎると、驚いたことに今まで所せましと並べられていた品がほとんどありません。

バザーのとき　　一年　いないし　こうすけ

おもちゃのとこにいったら、たくさん大きいおにいちゃんたちがいたよ。ぼくはあせをかきながらやっといちばんまえにきてえらんでかったよ。おばあちゃんもおさらやなべをかったよ。バザーは、すごいひとだったけどたのしかったよ。

バザーのこと　　一年　びんご　りさ

きのう、おかあさんとわたしとおばあちゃんとおねえちゃんで、バザーへいきました。アクセサリーやおもちゃやいろんなものが、たくさんあったよ。なにもかわなかったけれど、みるだけでもたのしかたよ。

今回のバザーの特徴は、『上地市』と名づけたもう一つの売り場です。図工室とその前のテントでは仕入れた品を売っています。今年は台風の影響で出回っている野菜が少なく値段が高いためか、大根をはじめとした野菜がすぐに売り切れです。おもちゃのコーナーも子供に大人気。なかなか売り場に近づけず、いらいらしている子もいました。

すごかったバザー

六年　渋谷　麻記子

「うわぁ、やっぱりもっと早く来ればよかった。」十時五分前に行った私達は、職員室の玄関まで続く人のれつを見て、後悔しながら並びました。

体育館のとびらがあくと、先頭の人がいっせいに入って行きます。私達も押され押されてやっと中に入れました。中に入ったものの品物を見るすき間がありません。おばさんたちでいっぱいです。私はやっとそれぞれの品物を手に取ってみることができましたが、おばさんたちがいい物を買って行ったらしく、何か残り物を見ているような気がしました。

図工室なども人がいっぱいで、ゆっくりはしていられませんでしたがなんとかいい物が買えたし、楽しかったので、またバザーに来たいと思います。

なお公開の入札の結果は、自転車（竹内道子様）、袖垣（高橋由美子様）、プッシュホン（久野靖正様）で、それぞれ大変喜ばれ、早速使用しているということでした。みなさん、ご協力どうもありがとうございました。

体育館に集められたバザー用の品々

九、「もみじ読書」と親子ふれあい読書

上地小図書館部

子供たちの読書意欲の向上を図るために、本校では十月三十一日から十一月二十六日までを読書月間とし、いろいろな読書活動が展開されました。ただ「読書月間」では硬い感じがするので、名称を子供たちから募集をし、『もみじ読書』と名づけました。

低学年は二十冊、中学年は十冊、高学年は千ページの目標を持たせ、読書に励むように働きかけました。

また、親子のふれあい読書を推進する先駆けとして、学級委員のご家庭に次のようなアンケートを行いました。

＜子供のころ、心に残った本は何ですか＞

・「ビルマの竪琴」「次郎物語」

五・六年の先生が女の先生で、毎日少しずつ本を読んで聞かせてくれました。そして、全部読み終わると、必ず感想文を書かされました。だから、一生懸命に聞いていないとうまく感想文がかけませんでした。その中で思い出すのがこの二冊の本です。

・「読んで聞かせるお話三六五日」

風邪でよく学校をお休みしていた小学生時代のある日、母が、「少しずつ読むように」と言って手渡してくれた初めての絵本でない分厚い本でした。日本や世界の民話が一年間毎日楽しめるというもので、以後の読書好きな私を作るきっかけにもなった本です。

＜子供に薦めたい本は何ですか＞

・「生きていくこと」（講談社）

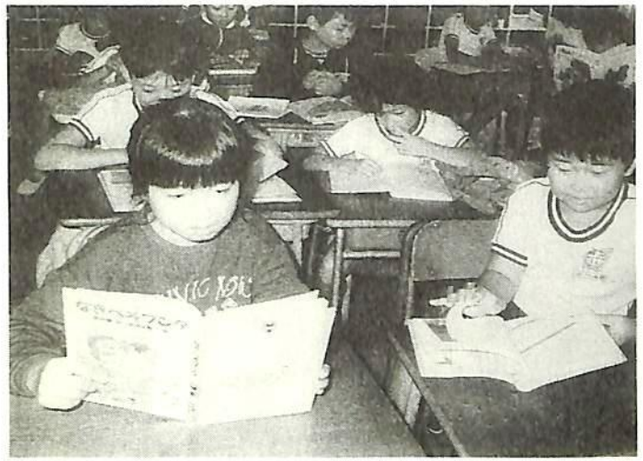
体の不自由な人、上地学区内でそういう人を見かけないような気がします。どんなときでも、不自由ということは大変なことだということと、思いやりということを分かってほしいと思い選びました。（五年生の父兄）

結果から、学校の教師、母親の影響がずいぶん大きいことが分かります。学校の教師の助言も大事ですが、家庭での読書環境作りも大切なことが分かりますね。

読書月間中、各学級では読み書かせ、読書発表会、読書計画の立案、続き話、絵本作りなどのさまざまな読書活動がなされました。

図書館も、毎日たくさんの子が利用しました。「辞書引き大会」「紙芝居の会」「読書感想はがき」「ぼくの・わたしのすすめる本」「読書クイズ」などにも多数の子が参加してくれました。

特に、校長先生の創作童話「チョーロー」はどのクラスでも取り上げられました。ふれあい牧場に住むおんどりが主人公なので身近に感じたのでしょう。読書は、実体験が多い子ほどイメージが豊かだということでしょうか。



どのクラスからも、本に見向きもしなかった子が、図書室に足を運ぶようになったとのことも聞いています。特に、二年生は八三・一％の子が、目標を達成したのです。

学校だけでなく、家庭でも親子ふれあい読書が推進されました。『十一ぴきのねこ』の色はどのくらい塗れたでしょうか。きっと、一冊の本を囲んで話がはずんだことでしょう。こんな日記を書いてくれた子がいました。

＜お母さんといっしょに読んだ＞

お母さんといっしょに、『エリちゃんでておいで』を読みました。エリちゃんは、おこると部屋のすみのカーテンにかくれるの。そのカーテンは、緑色で、はっかみたいにひなたみたいなにおいなの。おねえちゃんとけんかして、かくれたら小さいころのおねえちゃんが出てきたの。かくれんぼをむちゅうでしていたら、ほんとうのお姉ちゃんが、「見つけた」っていって立っていました。「ごめんね。」と言ってなかよく絵をかきました。

お母さんと二ページずつ声を出して読んで、とってもおもしろくて楽しかったです。また、ほかの本をいっしょに読みたいです。

三　年　野々山　すなお

親と子のスキンシップと言うか、温かいやりとりが目に浮かぶようです。親子ふれあい読書にご協力くださりありがとうございました。

次に、図書委員会が学年で人気のあった本を調べてみた結果をお知らせします。

〈一年〉
一年一組シリーズ
十四ひきシリーズ
王さまシリーズ
十一ぴきのねこ
がまんだがまんだうんちっち

〈二年〉
わかったさんシリーズ
王さまシリーズ
きいろいばけつ
一年一組シリーズ
こまったさんシリーズ

〈三年〉
王さまシリーズ
かぎばあさん
名門フライドチキン
ズッコケシリーズ
一年一組シリーズ

〈四年〉
王さまシリーズ
ズッコケシリーズ
一二三四五六七
矢田部君の三日ぼうず日記
緑色のたね

〈五年〉
ズッコケシリーズ
びりっかすの神様
王さまシリーズ
のんびり転校生事件
一二三四五六七

〈六年〉
二分間の冒険
びりっかすの神様
シャーロックホームズ全集
かぎりなくやさしい花々
片耳の大シカ

子供たちは、ストーリーがおもしろくて絵の楽しい本が好きなことがわかります。高学年になると、さすが読みごたえのある本が出てきています。もうじき冬休みに入ります。ぜひお年玉で本を買って読むといいですね。

十、小学校陸上競技大会

男子総合五位・女子総合六位

十一月四日県営陸上競技場で、市内四十二小学校が参加し、小学校陸上競技大会が開催されました。九月から練習に励んできた上地っ子は、各種目に力いっぱいの活躍をしてくれました。その結果、男子総合5位、女子総合6位という好成績を挙げることができました。

小田先生の厳しい指導に耐え活躍した上地小選手団

四年　・小幡朋史・後藤雄一・花田隆之・松井文人・後藤巧実・中嶋　翼
　　・竹林美沙子・永田千晶・戸苅史帆・遠藤友美・内田あかり
五年　・服部哲也・堅本智史・土屋友和・中村正徳・加藤有二・竹内貴幸・鈴木泰輝・安田　晃・三谷幸司
　　・大場栞央・杉浦ひとみ・村松祐子・味岡真美・石黒八枝・浅岡留美・加藤理恵・落合登輝子
六年　・阿部田直樹・小幡開士・夏目俊彦・大滝幸司・堀岡健太・中原雅範・吉村浩一・富永健太・本田智久・村松裕樹
　　・加藤恵一・山口貴基・竹内義典
　　・高木恵利香・石田理恵子・飯田佳代・吉田育代・佐々木涼子・本多里美・廣松麻衣子・平野扶美・柳瀬志穂
　　・吉村佳穂里・鈴木佐江子・竹原牧恵・原田弓美・鈴木由香里・中垣まどか

記録　・走り高跳び（男）二位　吉村浩一　・走り高跳び（女）四位　吉村佳穂里　千m（女）四位　中垣まどか
　　・5年百m（女）二位　大場栞央　・走り幅跳び（女）五位　廣松麻衣子　五年百m（男）五位　安田　晃
　　・高学年リレー（男）六位（阿部田・夏目・吉村・小幡）・低学年リレー（男）四位（小幡・後藤・花田・松井）

十時になり、ついに高跳びの番がきました。先生にリラックスしてとぶようにと注意をいただき、会場へ向かいました。

山口君や阿部田君や鈴木先生、名倉先生などおおぜいの人が応援に来てくれていました。

一回、二回と跳ぶたびに、みんなの顔を見て、次の目標への力がわいてきました。しかし、一メーター三五センチのとき、一回目、二回目と失敗し、あとのこり一回となってしまいました。

これで失敗したら終わりです、落ち着くために目を閉じていました。すると、急に名倉先生、鈴木先生の注意が思い出されました。踏み切りまでの歩数、足を上げるタイミング・・・・。

目をあけ、みんなの顔を見、バーをみつめ、思いきり助走をつけて踏み切り足をけりました。「跳べた。」

調子が出てきて、一メートル四十センチまで、一回でクリアーしていきました。その時は、二人しか残っていませんでした。

・・・・・・・・・。先生や友達みんなの応援のおかげで二位になることができました。

六年　吉村　浩一

１０００ｍ（女子）力走する中垣選手

十一、着々と進む十周年事業

学区・学校創立十周年事業は、総代さん初め学区の多くの方々のご協力により順調に進んでいます。記念事業のひとつである「ふれあい牧場」は、上地四区の成瀬建築さんのご協力によりヤギとチャボの小屋が完成し、あとはフェンスの完成を待つばかりです。

今までの小屋より一回り大きく、スマートなでき上がりに、子どもたちも大喜びです。

長坂先生のお話によると、近いうちに、ゴン太と同じヤクシマヤギが「ふれあい牧場」に仲間入りする予定とのことです。

独りぼっちになったヤギのゴン太も新しい仲間と一緒に新居に入れる日を首を長くして待っています。

フェンスの工事も十二月に入ると始められ、十二月八日には、すべて完成する予定です。

長老もチャボもゴン太も、もちろん、飼育係のこどもたちも大変楽しみにしています。

絵　若松新　平沢　多映子さん

十二、上地っ子文化祭

十二月九日上地っ子文化祭が盛大に行われました。児童会の代表委員会が中心になって企画運営にあたりました。この行事のねらいは、次の3点です。

①児童自らの力で行事を企画・運営することにより、創造し実践することの楽しさを味わわせる。
②学級で準備や練習を進める中で、学級内のふれあいを深め、団結力を高める。
③全校挙げて行事を盛り上げていくことにより、上地っ子の総合した力を一層発展させる。

八時五十分テレビ放送によるオープニングセレモニーが始まりました。六年生の渡部俊介君・上坂亜希子さんによる開会宣言で上地っ子文化祭が始まりました。午前中は低学年・高学年に別れて音楽鑑賞会を行いました。名古屋Ｃｉｔｙ管弦楽団を招いての音楽鑑賞会です。

２年　本間みさと

きょう音がくかいがありました。バイオリンやビオラやチェロやコントラバスやフルートやピッコロやオーボエやクラリネットやトロンボーンやドラムなど、いっぱいがっきがあったよ。きゅうりでふえが作れるなんてしらなかったよ。バイオリンのひもはうまのしっぽをつかってたなんてしらなかったよ。

２年　山本　あきお

楽しみにしていた音楽会のはじめは、『天国と地獄』でした。私が一番気にいった曲は、らくだが、遠くから歩いてきて、また帰っていくという曲（ベルシャの市場にて）がとても良かったです。本当に歩いてくるようで、さばくの曲みたいでした。バイオリンが特にきれいな音でした。たった4本のげんで、あんなきれいな音が出るのかと思いました。

４年　鎌倉　佳恵

昼食は、通学団ごとに別れての「ふれあい会食」です。

おにぎり、サンドイッチ・・さまざまなご飯の種類があった。みんな笑顔で、おいしそうに食べていた。来年も、今年と同じように、文化祭の中に「ふれあい会食」を入れて、班の子だけでなく誰とでも笑顔でお弁当を食べれると、もっと文化祭が楽しくなると思った。

５年　大林　佳央里

午後は、4年生以上の各クラスが趣向を凝らしたコーナーへの参加です。子どもたちにとって一番楽しみな時間です。この日のために各クラスとも、何回か学級会を開き相談をかさねてきました。今年の各クラスのコーナーは、次のようです。

「迷路宝さがしゲーム」（4ー1）　「フライイングバニック」（4ー2）　「体験おばけやしき」（4ー3）
「びっくりカジノ」（4ー4）　「ゴーストランド」（4ー5）　「おもしろ社会科コーナー」（5ー1）
「おばけやしき＋ウルトラクイズ」（5ー2）「世にも奇妙なおばけやしき」（5ー3）　「子どもホーム」（5ー4）
「地獄の体力診断コーナー」（5ー5）　「スーパーラスベガス」（6ー1）　環境ウルトラクイズ（6ー2）
「カラオケおんちっち」（6ー3）　「ジーニアスに挑戦」（6ー4）

上地っ子文化祭は、本当に満足しました。十一月の終わり頃の代表委員会で係分担をしました。ぼくは、一番力の出せる、放送係にしました。文化祭の一週間前は、コーナーのＣＭタイムで、みんな毎日お昼の放送でがんばってくれました。でも、こわれているマイクを使っていて、音が出てなかったり、アクシデントもたくさんありました。しかし一度やった失敗は二度とやってはいけないと、長放課を使って用意をしました。当日、オープニングでは始めから失敗もなく大成功しました。本当に今年の文化祭は、大満足でした。

６年　住田　朋久

十二、耐寒かけ足

一月十日から恒例の耐寒かけ足が始まりました。朝、八時十分半袖姿の鶴田先生の号令のもと準備運動が始まります。一・二・三年生は、運動場を、四・五・六年生は学校周辺道路を元気よく走りました。

どの子も、自分のペースに合わせて力いっぱい走りました。一・二年生でも、元気のよい子は十周以上走り抜きました。

汗かきの深津先生は、走り終ると顔から、頭からすごい湯気が立ち上がります。まるで、ゆでダコのようです。いつも、おしとやかな森下先生も、五年生と一緒に毎日元気に完走しました。なかなかの走りっぷりです。元気者の小田先生は、先頭をきって走りました。

耐寒かけ足の最後の仕上げは、マラソン大会です。マラソン大会にむけて、だんだん熱が入ってきます。運動場を走る、低学年の子も、十一周、十二周・・・と回る回数が日毎に増えていきました。

学校周辺道路を走る高学年の子も、日を追って走るペースが上がってきました。マラソン大会を期して、始業前や、授業後に練習をする子も現れました。

今年の、耐寒かけ足の、大きな特徴は、見学の子が非常に少なかったということです。期間中、一人の見学もなく、全員が元気に参加できたクラスもありました。

1年　原田　裕子

マラソン大会

一月十八日（土）、マラソン大会です。一年から六年まで、学年ごとに、学校の外周道路で競います。走り終ると、PTAの方々の心のこもった、おいしい『おしるこ』が待っています。

応援の父兄の方も、続々とつめかけてきてくれます。

コースには、交通指導員のおじさんと、PTA保健体育部のお母さんたちが安全指導のため曲がり角に立ってくれました。どの子も、大張り切りです。

スタートラインのとき、しんぞうがどきどきしました。マラソンは、こんなにえらいと、おもわなかった。おかあさんの、おうえんで、がんばれたよ。

一年　あまの　えつこ

はじめに、じゅんびたいそうをやったよ。いよいよマラソンだよ。むねがどきどきしたよ。はじめのほうは、二十三いぐらいだったけど、さいごのいっしゅうでぬかされたけど、また二人ぬかして五十二いになっちゃったよ。はしったあとの、おしるこは、とてもおいしかったよ。

二年　鈴木　太一郎

私は、一月十八日が、とてもうれしい日でした。私は、毎年マラソン大会が大きらいでした。いつも、どべ近くだったからです。一年の時五十八位、二年の時は六十二位でした。それで、三年になったら、三十七位でした。今までとったじゅん位より、はるかに早いので、うれしいのです。なんでこんなに早くなったのかわかりません。コースが長くなったからかな、体そうクラブで三周走っているからかなと思いました。四年生になったら、もっと、じゅん位を上げてみたいと思います。

三年　辻村　麻子

十四、「ふる里上地」除幕式

学区・学校創立十周年事業のシンボルである「ふる里上地」（創立十周年記念像）の除幕式が行われました。4・5・6年児童、実行委員会、協力をいただいた事業所さらに、PTAの方々が参加して、盛大に行われました。

この式には、記念像の製作者である、彫刻家の鈴木政夫先生も出席して頂き、お話を聞くことができました。

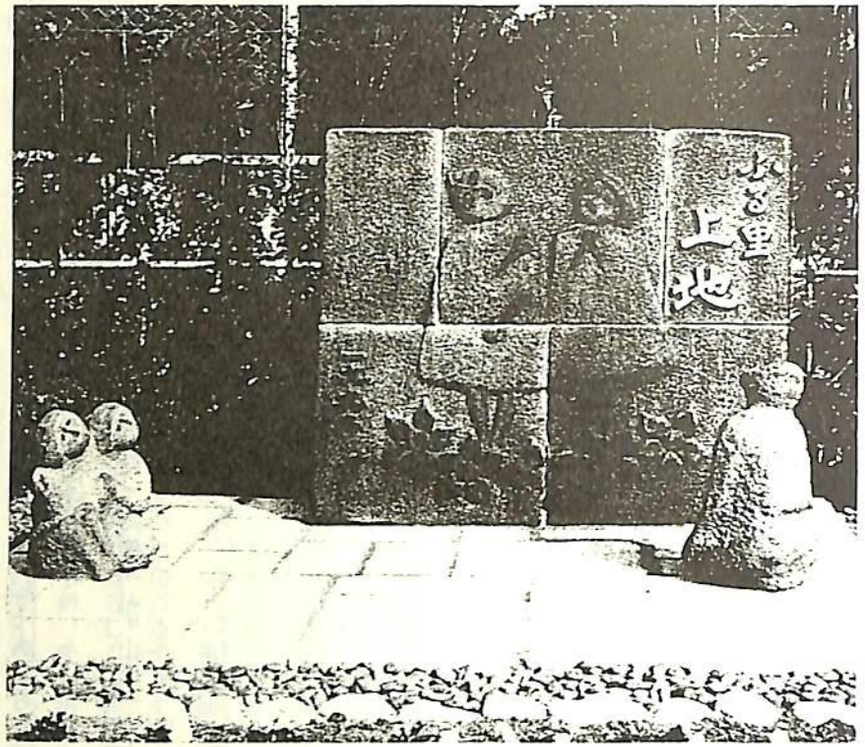
成瀬実行委員長、柴田社教委員長、嶋田校長、鈴木PTA会長、児童代表の辻本知史君・塚本晶子さんの六人の手で、除幕され、大きな拍手の中に、すばらしい像が現れました。

学校長あいさつ（要旨）

わが国、石の彫刻家の第一人者、鈴木政夫先生の格別のお計らいで、この上地のために最高の作品をお作りいただきまして、この上もない喜びであります。

みかげ石の素朴さと力強さ。温かく、親しみ易く、そして明るく希望に満ちた姿。これは発展する上地の象徴であり、華と緑の住みよい土地の願いでもあります。この力強さ、優しさ、希望の姿は、また上地っ子の目標であり、学区民のマスコットの役目を果たしてくれるものと思います。

石の像は、雨に打たれ、風に吹かれ、日に照らされて、ますますその味わいを深めていきます。そして、この記念像は学区、学校の続く限り「ふるさと上地」を見守ってくれるものと確信いたします。子々孫々の末代まで、誇り得る宝であります。



校門のところに「ふる里上地」の像ができました。

五年前、「とべ上地っ子」の像を作ってくださった鈴木政夫先生が、またすばらしい像をつくってくださいました。

この上地が、みんなのふるさとになるといいなと、思います。像は、みんな楽しそうに寄りそったり、笑っています。とても仲良く立っています。上地の人たちも、この像のように、みんな仲良くしていこうということを表わしていると思います。

私たちは、この像のようにみんな仲良くし、そして、すばらしいふるさとにしていきたいと思います。

六年　柳瀬　志穂

十五、ふれあい牧場だより

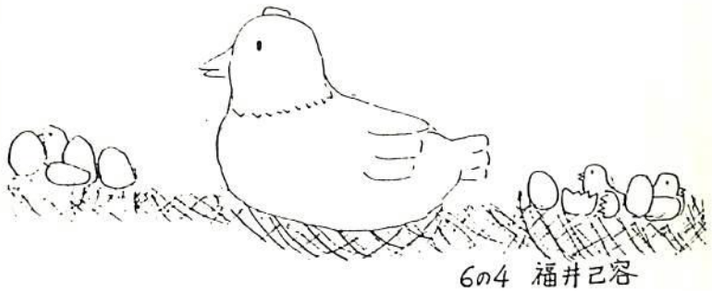
長坂　信一

●一月十九日（土）　ずいぶん元気が出てきた花子

今年の冬は暖かい日が続きます。動物たちにとっても過ごしやすいはずです。

花子の左足は手術のきずあとが目立つけれど、動きがスムーズになってきました。子どもたちが近寄ると飛びついてくるし、小屋の中にいても人の気配を感じると、前足を小屋の窓にかけるようになりました。人間も同じだけれど、健康というのは本当にすばらしい。学校も今週は欠席がだいぶふえてきて、一日に二十人ちかく休んでいます。

三年生の当番たちは、チャボの卵が、いつひなにかえるか楽しみにしています。十五個の卵を産み終って、本格的に卵を温め始めたのは十二月二十八日ごろなので、予定では一月下旬ごろに、ひながかえるはずです。チャボやにわとりは、およそ三週間でひながかえるそうです。



6の4　福井己容

●一月二十九日（火）　手術の糸をぬく

四時半ごろ狩野先生がみえて、十二月に手術をしたときにぬった左足の糸をぬいて下さいました。

今までの経過をお知らせすると、

「思っていたよりも、うまくいった。ぬったところもきれいだし、これはよかったな。右足も仮骨形成（かこつけいせい）して動けるようになったね。私もうれしですよ。」

と笑顔で言われました。いよいよ、オスを何とかしなくては花子がかわいそうになってきました。

●二月十日（日）　えっ、花子が牧場の一番上まで足をのばしてるって！

予定の廃品回収は雨天のため、延期。雨足が少し弱まったお昼に、「ふれあい牧場」をのぞきました。あれあれ、花子が牧場の一番上のさくまで足をのばしています。花子はそんなに大きかったかなと、中を見ると、さくの近くに箱が置いてありました。そのくらい花子の足がよくなってきた証拠です。　小雨が降り続いているので、まず花子を小屋へいれました。それから、チャボの相手です。このごろチャボのオスがよくけんかをします。この間は、とさかがとれてしまうのではないかと思えるほどのけんかだったらしく、保健室まで連れてきてオキシドールをぬってやりました。

中根先生もびっくりしてみえました。子供たちが、チャボを心からいとおしく思っているから、ごく自然にそんな行動がとれたのでしょう。鳥の温かさは実際にだいて、さわってみなければ分かりません。

ところで、一羽白いチャボがいますが、図鑑で調べると、天然記念物だそうです。六年の村上君はそのチャボをちょうろう（長老）とよんで毎日会うのをとても楽しみにしています。

●二月十七日（日）　一年生のお友達のお母さんが名古屋から

昨日に続いて、今日も強い北風が「ふれあい牧場」を吹き抜けています。ゆうべの風で小屋が少しずれました。中心気圧が九六四ミリバールの低気圧で、台風なみであったそうです。

午後三時には六年生女子が三人、牧場でチャボとやぎの花子の世話をしていました。そのうち、幼稚園くらいの子とお母さんが四人でやってきました。当番の子がだいたチャボに、おそろおそるさわってみたり、花子に声をかけてくれました。初めてだと、チャボはちょっとこわい感じがします。聞いてみると、今年名古屋から上地小学校へ来た一年生の横江君のお母さんと友達のお母さんで、

「とてもいい学校なんですよと言われたので、どんなところか、　来てみたかったんです。」

「まあ、かわいい。やぎって、こんなに小さいんですか。」

「十二月までは、もう一匹のやぎがいたんですけど、残念なことに死んでしまいました。」

「かわいそうに、どうしてですか・・・。」

と、話しながら子どもがえさをやるのをながめていました。花子ったらうれしそうに、小屋の外まで首をのばして食べていました。当番の子たちの「優しさとのびのびした」様子を感じて、上地小学校を心に強く焼きつけて帰られたことでしょう。

●三月一日（金）　お〜い、ビッグニュースだぞ

二か月ぶりで『ふれあい牧場』にヤクシマヤギのオス・メスがそろいそうです。リリーン、リリーン。

「もしもし、上地小学校ですが。」

鈴木獣医先生からの電話です。

「明日、ヤクシマヤギを見に行きます。」

ということで、明日がとても楽しみです。ありがとうございます。

太郎が十二月に死んでしまってからずっと気になっていたことでした。

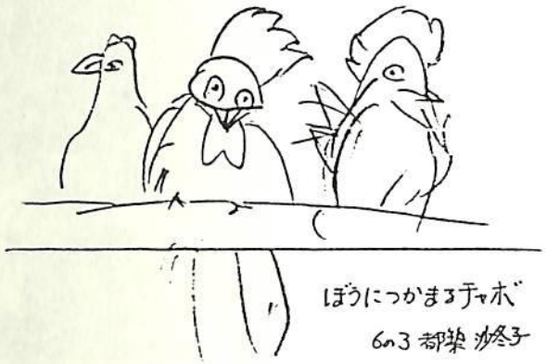
でも、花子よ、今日はちょっと元気がないじゃないか。仲間のヤクシマヤギが来るかもしれないのに。やぎも

「頭が痛いな、腹がおかしいな。」

と言ってくれればいいのに。

●三月二日（土）　わ〜い、うれしいな、新しいヤギだ

元気のない花子の様子を、係の子に聞いてみると、



「昨日の放課に外へ出て、チャボのえさを食べていたよ。」と話してくれました。なるほど、花子のはらがすごくふくれています。ガスがたまって、苦しそうです。うん、そういえば、この間、樹木の消毒をしたが、気づかずに木の葉をやってしまった子もいるかもしれませんね。

さて、新入りのヤクシマヤギはオス、メス一頭ずつです。オスは人間にかなり慣れているが、メスは母親から乳ばなれをしたところで、すぐには慣れないかもしれないとのこと。じゅうぶん気をつけないと、あの一年前の太郎の脱走と同じことが起こる可能性がありそうです。

佐野先生にも手伝っていただき、小屋に入れました。すぐ鳴いて近づいてきたのは、やっぱりオス。いかにも人をさけて、小屋の板に体をすり寄せているのはメス。早く仲良しになろうね。

●三月四日（月）　一一頭のヤクシマヤギの紹介

寒さがだいぶやわらいできたように感じます。月曜集会で校長先生が「子供の転校生とやぎの転校生をしょうかいします。」

といわれました。

飼育係の村上君にだかれたオスと、由香里さんにだかれたメスが、台の上にあがりました。オスはさかんにごそごそとあばれますが、メスはおびえて由香里さんの腕に顔をうずめています。

運動場に並んだ子たちのざわめきがいっせいに起こり、うれしそうな顔がやぎたちを見つめています。

一時間目の放課になると「ふれあい牧場」は数十人の子供たちでいっぱいになりました。二時間目も同じようなにぎやかさです。

二匹の名前も募集中です。お昼には、名前を書いた紙が、箱いっぱいになってきました。

●三月十一日（月）決定！ごん太と　もも子

雨が降って月曜集会は放送集会になりました。校長先生から新しいやぎの名前の発表がありました。

『オスはごん太、メスはもも子』

太郎が病気で死んでしまったので、オスは強そうな名前にしました。名前をつけてくれた一人の後藤真理子さんも同じ考えだったそうです。もも子は、今年の流行を考えて決めました。そう、日曜日の六時からテレビで大人気のちびまるこちゃんの名前ですね。

なにはともあれ、ひどい病気になったり、死んだりしないでほしいものです。

他にも幸せにという「ハッピー」、次郎というのも多かったが、高山先生もじろうというのでやめました。

●三月二十四日（日）春休み

今日は天気が良くなり、ほっとした日曜日、「ふれあい牧場」をおとずれてみると、もと六年生の安達さん、小森さんがチャボの世話をしています。牧場をきれいにはいてすっきりした顔をしていました。

チャボの様子はあいかわらずで、マドンナが移動すると、ほかのチャボもちゃんとついていきます。行動範囲もなかなか広く、もとブレハブ校舎のあった庭までやって来ては、遊んでいます。

しかしよく心得たもので門からは出ていかないようです。やぎのごん太、もも子はすっかり慣れて、えさをやると飛び上がって寄ってきます。いつの間に腹の調子が治ったのか、花子も気分良さそうに仲良くやっています。

●三月二十六日（火）また見慣れないチャボが

「先生、先生ったら・・・・・・・。ねえ来てよ。」

「教室のシマリス」　6の2　飯田佳代

牧場について見ると、よくこえた茶色のチャボがいつの間にか、仲間になっています。しかも、ぜんぜん違和感がありません。ゆうゆうと牧場の中を歩いているのです。上地小学校の子どもたちといっしょで、新しい仲間をじょうずに迎えてやれるような雰囲気が「ふれあい牧場」にもあるのでしょう。ほんとうにすばらしいことです。

●四月五日（金）入学式、うららかな春・・

いよいよ平成三年度が始まりました。上地小学校も、新入生一五〇名と新しい先生を迎えてスタートです。「ふれあい牧場」のチャボはますます元気に走り回っています。その様子を見ていると、幸せなやつらだなあと思います。

ヤギたちは、春休みであまりえさをたくさん与えてないので、だいぶやせているようにみえます。しかし、野生のヤギはあまり太っていないのです。だからこのくらいでちょうどいいのでしょう。

入学式を四十分ほどにひかえて、お客さんの案内のために、通路で交通整理をしていると、一年生にまじって小さい子たちがやってきては、「なかよし池」をのぞいていきます。それにつられて見ていると、池のコイたちの動きがずいぶん早くなってきたように感じます。動物たちは実に温度に敏感です。そろそろコイたちにもえさをやる季節になってきました。

浄化装置（じょうかそうち）のおかげで、池の水はとてもすんでいてきれいです。どの魚も元気そうです。

「ふれあい牧場」の太ったチャボは四年生の宇野君が仲間にいれてくれたものだと分かりました。それにしても何と体重七キログラムとはびっくりです。宇野君の話によると、「名古屋コーチンといって、もともと食用にされる鳥」なのだそうです。どうりでまるまると太っているわけです。

●四月十一日（木）「なかよし池」のコイたちが一回り大きくなった

水温がだいぶ高くなってきたのでしょう。池のこいはえさを食べるようになってきました。よくみていると、去年の夏に総代さんに入れてもらったコイたちが大きくなっています。あの矢作川で捕った大物も、いちだんと成長しているように感じます。

「先生、かめはどうしたの。」「かめは死んじゃったの。」

心配して、聞いてくる子が多くなりました。

「あのかめは、奥山田池にいるんだよ。なかよし池では、どろや土がなくて、冬眠ができないからね。」

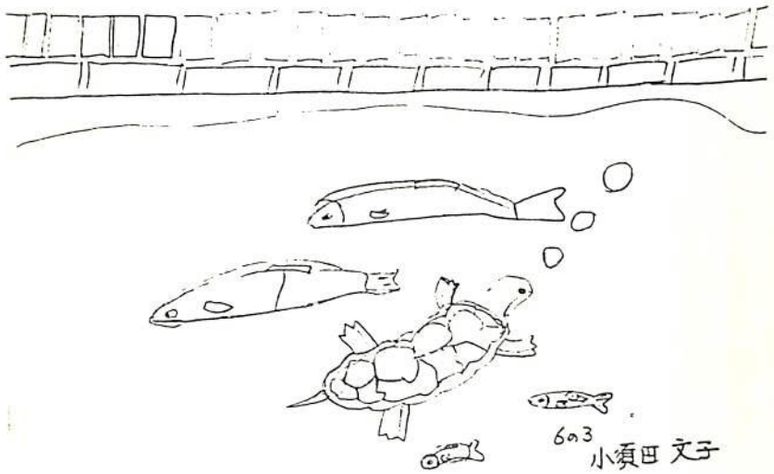
石の上にちょこんと乗って、首をのばしている。あのユーモラスなかめは子供たちの人気ナンバーワン。

そんなときに、三年生の久保田君と黒柳君がかめを連れてきました。かめは池のなかで、ブロックの上に乗り、ゆうぜんと顔を出しています。

すっかり暖かくなったこのごろでは、

「おはようございます。」

と、登校するとすぐに「なかよし池」に来る子がたくさんいます。



●四月十七日（水）　一年生は学校めぐりにいそがしい

『ふれあい牧場』へは一年生がやってきて、花子・ごん太・もも子、チャボたちとお話をしていました。

「せんせい、やぎさんが話をしてくれないよ。」

「わたし、にわとりこわい。」

なんて子もいましたね。こんな一年生ですが、すぐになれてしまうでしょう。

●四月十八日（木）　ちょっとした春のあらし

朝から曇り空で、今にも雨が降り出しそうです。風が強くて大変な日でした。中庭では小さなたつまきが起きて、枯れ葉を舞いあげています。一斉下校のころには、雨がかなり降ってきて寒くなりました。

こんな時、チャボは実にうまく風と雨をさけます。昨日のようにやや暑い日は、木のかげで休憩していたやぎたちも今日は牧場のさくにくっついて、風をよけています。

みんなの好きな『なかよし池』は、どの放課にもいつもにぎやかです。

「おおい、コイ。こっちへこい。」

なんて、自然にしゃれを言っています。校内めぐりの一年生の女の子は、今日も

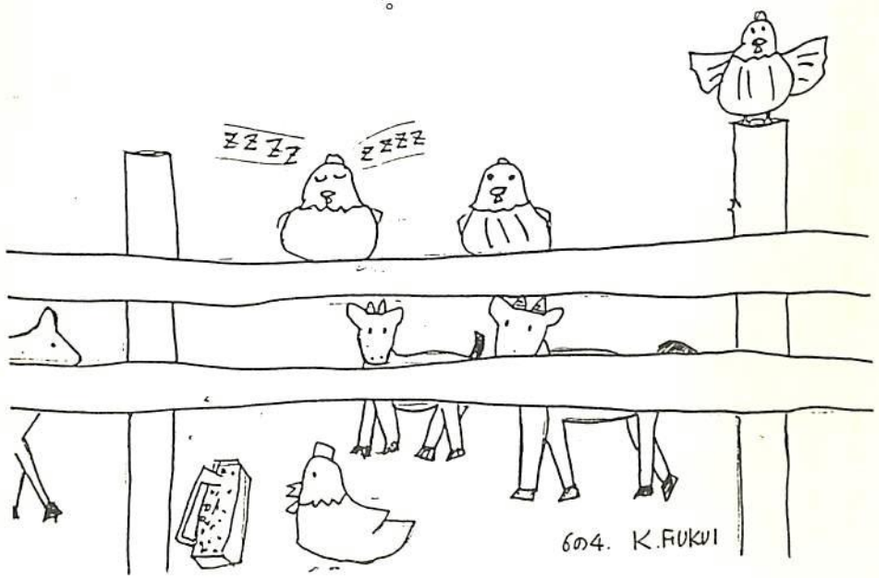
「こんにちはと言ったら、元気だよって、答えてくれたもん。」

と、喜んでいました。その後で、何かをいっしょうけんめいさがしていました。

「何をさがしているか、当てようか。それはカメでしょう。」
「うん、カメはどこにいるのかなあ。」
今日は、陽が当たっていないので、いつもの石の上にいません。
「にこにこ橋」の下にかくれています。

●四月二十七日（土）おまたせ！当番さん
今日からよろしく・・

「いつから当番できるの。」
新しい係の子が聞いてきます。一時間目が終わって、理科室に集合しました。四年生は運動場でドッジボール大会のまっさい中。三年生以上のしいく係がとんできました。
当番の確認、仕事についての話をして当番表をわたしました。動物好きのみなさん、来週から世話をたのみます。
日曜日でも『ふれあい牧場』のそうじがきちんとやれました。チャボもやぎも、ことばをしゃべらないけれど、
「気持ちがいいなあ」
と、言っているようです。

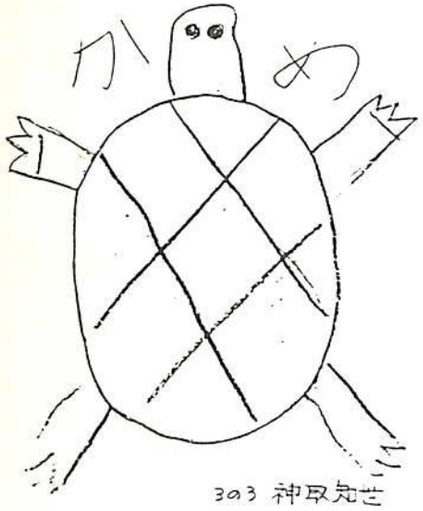


●四月二十九日（月）「なかよし池」のまわりは
いつもいつもにぎやか

池の当番もたいへん人気があります。だって、大きなコイや金魚、カメがたくさんいるからです。春休みのころと比べて水の温度がずいぶん上がってきました。コイたちの動きも変わってきました。えさもたくさん食べるようになりました。じょうかそうちの『わきしみず』もがんばって働いています。

●五月一日（水）池の水がへりすぎる
どうもおかしいぞ！

魚の好きな教頭先生がいつも、池の様子を見ていてくれます。
「池の水がやけにへっているのでおかしいなあ。」
池の水については、ここ数日間、少しずつへっていて、きのうも帰りに水を入れておいたのだけれど・・・。
池のコンクリートにひびが入ってるのだろうか？もしそうだとすると一大事だ。『わきしみず』が、よごれた水を何回もくみ出してしまい、それで水が減るのだろうか？機械について専門家に聞いてみました。その人はさっそく来て、直してくれました。どうも、冬の間に落ちた枯れ枝が、機械にはさまって、水が外へ出続けていたようでした。



●五月三十一日（金）まさか、まさか・・・

『ふれあい牧場』の小屋の入口を開けました。ごん太とも子が元気よく飛び出してきました。「おはよう。」声をかけると、ウンメーと、いつものように鳴きました。

あれ！花子が出てこないぞ。奥でまだ横たわっています。でも、寝ている感じではありません。急いで中へはいってさわってみると、もう体のぬくもりがありません。もちろん動いてはくれません。昨日の夜八時ごろ、竹平先生が教室で仕事をしてみえる時、やぎの鳴き声がよく聞こえていたそうです。ふつうやぎは夜になると静かに休むはずです。声の様子をお聞きすると、

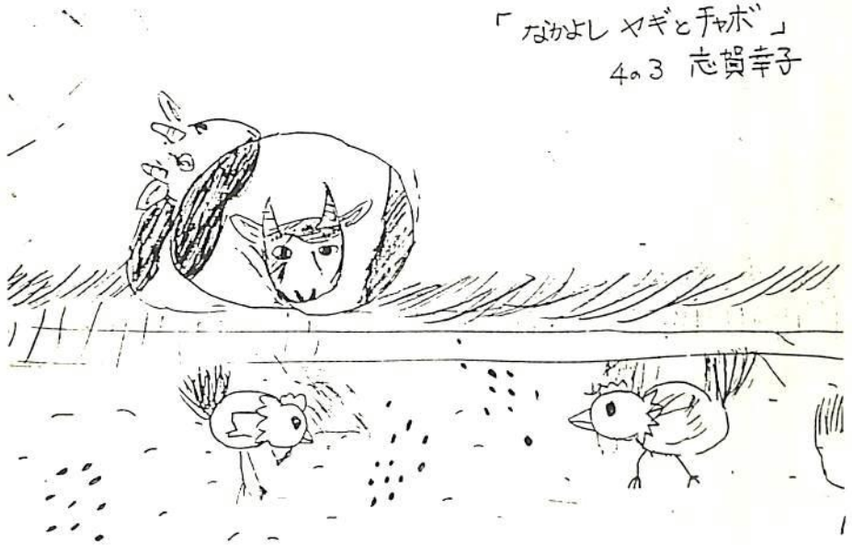
「そういえば、いつもより声が低いような気がしたなあ。」

と言われました。

花子をだんボールに入れて、花をささげました。一年生、二年生、そして当番の子たちはもちろん、たくさんの子が別れを告げに来てくれました。

「先生、どうして死んじゃったの。」

「先生だって、分からないよ。昨日まで元気だったんだから。」



教頭先生はぽつりと言われました。

「太郎が死んで、ちょうど六か月だねえ。天国の太郎が呼んだのかなあ。」

一時間目が終わって、職員室に戻ると『花子ちゃんへ』というお手紙が届いていました。この間、写生会でやぎさんを描いてくれた二年生からでした。どの子の文も心がこもっていて、読んでいるだけで、なみだがたまってきました。

花子ちゃんさようなら。また天国であえるといいね。　さおり

花子さんさようなら。花子さんまだ遊びたかったよ・・・・　みほ

花子ちゃん天国へ行ってもお元気で、ももことゴンタは花子ちゃんの分までがんばります。えをかかしてくれてありがとう。長い間ありがとう。いつまでもわたしたちのことをわすれないでください。　高木まりこ

花子ちゃん、長い間ありがとう。　まつむら

花子さん、えをかかせてくれてありがとう。さようなら。

花子さんはかわいかったよ。花子さん、ともだちになってくれてありがとう　ささ木まり

さようなら。　えんどう

花子さんに寄せられたどの文を見ても、動物に対するやさしさがいっぱいです。とくに二年生の教室は、『ふれあい牧場』のすぐ近くでしたね。あのやさしい顔をした人気者の花子さんにもう会えません。

●六月三日（月）　やはり食べ物か？

花子さんに寄せられたどの文を見ても、動物に対するやさしさがいっぱいです。とくに二年生の教室は、『ふれあい牧場』のすぐ近くでしたね。あのやさしい顔をした人気者の花子さんにもう会えません。

「なぜ死んじゃったのかなあ。」

これはだれもがいだく疑問です。お医者さんに見てもらいました。お医者さんの話によると、胃がすごくはれていて、肺（はい）や心臓を押えつけていたそうです。

そのお話を聞くと思い当たることがあります。それはチャボのえさです。最近、チャボのえさが牧場の中にまかれていたことが、よくありました。このままでは、また同じことが起きてしまいます。

今日は雨のために月曜集会が放送で行われました。はじめに、校長先生が六月に行われる『あじさいの読書』について話されました。続いて生きたものに対する本当の思いやりについて、全校のみなさんに考えてもらいました。

① 『なかよし池』にみんなで入りすぎると、水がよごれて魚が弱ってしまいます。

② チャボはチャボのえさ、ヤギはヤギのえさを正しく与えよう。チャボやヤギも人間と同じで、食べ過ぎはよくありません。

●六月十日（月）　チャボの卵がわれてきたぞ・・・

お昼のそうじをひかえて、職員室で一休みしていました。サンクガーデンの方から四年生の稲石、池田君が報告に来ました。

「先生、卵の中からもうひなが見えてるよ。いっしょに来て・・。」

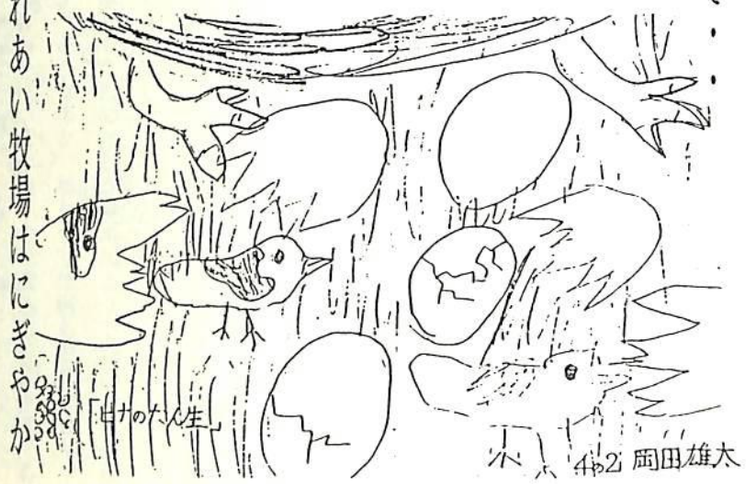
「それは生まれる瞬間（しゅんかん）が見れそうだね。」

『ふれあい牧場』には、その瞬間を見ようと、すでに十人ほどの飼育係が集まっていました。一番左側の箱にはいったチャボの足下には、からがわれて中が少し見えている卵がありました。みんなでしばらくじっと見守っていました。

そして約十分、からの外へ出たかわいいひなは元気よく鳴き始めました。今までは寒さのせいでしょうか、なかなか生まれなかったけれど、あまりにもあっさりと生まれてしまってしばらくぼっとしていました。親に似て黒いひなでした。

●六月十五日（土）　かわいいひよこの声でふれあい牧場はにぎやか

朝牧場に着くと、とても元気の良い声で、ひよこが鳴いています。



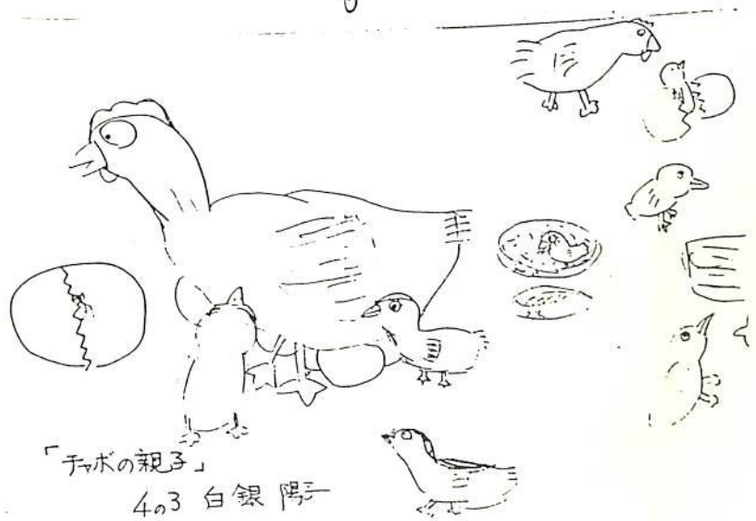
「えさをください。」
と言っているのでしょう。人が行くと、すぐにお母さんの羽の下にかくれようとします。黒いひな、黄色のひな、黄色にうすい灰色のひな、よくにてはいるのですがどれも違う色をしています。かわいいひよこなら、かってみたいという子がたくさんいます。

しばらくずっと見ていましたが、あきません。ぴよぴよ、ぴよぴよと鳴きながら、少しも動きをとめません。ある時はえさをさがし、またある時は母親の回りを心配そうに動き回っています。

●六月二十日（木）『なかよし池』はとても順調です

今週の当番はBはんです。月曜日からきちんとえさをやったり、そうじをしてくれます。先週もAはんの子たちが予定どおりそうじをやってくれました。おかげで、『なかよし池』はみんなの遊び場になっています。それから、毎日ノートをつけて記録していてくれます。これはものすごく大切なことです。

チャボのひなが心配なので、三年三組の加藤真委さんと後藤清美さんが二羽、五年三組の清水由香さんが一羽あずかってくれます。



「チャボの親子」
4の3 白銀 陽子

●六月二十四日（月）　もも子、おまえもか・・・・

昨日から、うっとうしい雨が続いています。朝、五年生の子とわらいながら話していました。

「またチャボが生まれたよ。見に行ってごらん。」

「じゃあ、見に行こう。ねっ！」

ところが・・・・・・・・・、牧場での楽しい様子を聞かせてくれるはずの三宅さんが、心配そうな顔で職員室まで私を呼びに来ました。

「もも子が動かない。死にそう。」

というではありませんか。私の頭の中に、一か月前の花子、六か月前の太郎の時の様子がうかびました。困ったぞと思いながらも、牧場に近づくにつれて、歩く速さが増していきました。

小雨の降る『ふれあい牧場』の小屋の中には五人の子が心配そうに集まっていました。清水さんにもも子を小屋の入り口までかかえて出してもらいました。もも子はほとんど息をしていません。前足の下に手を入れてみても心臓（しんぞう）の動きがほとんど感じられません。正直言ってこれはもうだめだと思いました。

倉庫にいれて、教頭先生に連絡を取りました。教頭先生の目にも、やはりもうだめだとうつったようでした。しかしていねいにおなかのあたりをさすってみると、まだかすかに生きています。こうなると、私たちでは何もできません。いつもお世話になっている、市役所農務課の狩野先生に電話をしました。もも子につきそっていた数名の五年生は、心配で心配で授業にもいけません。

九時半頃、先生がみえ、すぐに治療が始まりました。

注射（ちゅうしゃ）をしました。点滴（てんてき）もしました。体をゆたんぽで、あたためてやりました。カルシウムやマグネシウムも与えました。ごん太から血をもらって、輸血（ゆけつ）もしました。もも子のために良いと考えられることは、ほとんど全部やっていただきました。

その間もも子は、鳴きながらいたみにたえました。苦しくてもがきました。先生は、治療（ちりょう）の最中に何回も

「最後に助かるか、それとも死んでしまうかは、もも子の生きようとする力である。」

と言われました。生命力というものでしょうか、それは人間の場合でも同じだと思います。狩野先生には、ひとつの小さな生き物のために、大切な仕事の間をぬって、六時間近くもおせわになってしまいました。命を大切にする先生の気持ちには頭が下がる思いです。しかし残念なことに、私では何もしてやれないのです。　さて、長いながい一日が終わろうとしています。職員室の時計は、もう九時です。最後に、菅沼先生と深津先生といっしょに、もう一度もも子の様子を見に行きました。部屋の電気をつけると、もも子はいっしょうけんめいに立とうとします。でも立てません。

点滴中のもも子を見つめる教頭先生岩瀬さん

もも子の顔の様子は比較的（ひかくてき）おだやかでした。

●六月二十五日（火）みんなの願いもむなしく・・・

さようなら、もも子

学校に着くと真っ先に、階段下の倉庫に行きました。心の中で、何とか元気になったもも子の姿を想像しながら。でも、半分は最悪の結果を予想していました。倉庫に足をふみいれたとたん、最悪の結果のほうが当たっていました。昨日の夜、そっとかぶせておいた服の下で、もも子が静かに横たわっています。

すぐに新しい箱に入れて、あじさいを三本そなえてやりました。四年生の宇野君たちと、『ふれあい牧場』の近くに運びました。ごん太もこちらの様子が気になって、首を伸ばして見ています。

午前中にたくさんの子が、もも子と別れの対面をしてくれました。ありがとう。鶴（つる）をおって入れてくれました。ありがとう。もも子の目を見てくれましたか？とてもきれいで、丸く、すんだ目をしていました。毛にさわってみても、さらっとしていて今までと少しも変わりません。だれかに

「まだ生きてるよ」

って言われると

「ほんとだねっ」

て言ってしまいそうです。

さよなら。さよなら、もも子・・・

● 六月二十八日（金）　毒を持った木は　まだまだあった

長坂　信一

去年の十二月に太郎、五月に花子、そしてついこの前のもも子の死。あまりにも早すぎるということで、原因を追求してみました。

特にキョウチクトウなどのような毒を持っている植物について。

その一つは、ユズリハです。「ユズリハ中毒」ということばがあるくらい強い毒だそうです。これは職員室玄関のすぐとなりに二本あります。ためしに葉を取ってかんでみました。キョウチクトウもにがいけれども、このユズリハもたいへんにがく、とても食べれません。だからやぎもたぶん食べません。しかし、本当にえさがなくなって、腹がすいている場合とか、ほかの食べ物に混じっていた場合は食べてしまうこともあります。

もう一つは『ふれあい牧場』の回りに七～八本植えてあるニセアカシアです。特に成長するとき、つまり春から夏にかけてが一番危ないのだそうです。

私はこの話を聞いたとき、しばらくは信じれませんでした。朝も、ニセアカシアを食べさせてしまったのです。

「ニセアカシヤは豆科の植物で、やぎも大好きなんですよ。」

「やぎを散歩に連れだすと、真っ先にニセアカシヤを食べるんです」

少し以前ならそんな話を笑いながらしていたのに・・・・

このままでは、今日もまた知らずに毒を食べさせてしまうかもしれません。

昼の放課に、やぎの飼育係を『ふれあい牧場』の回りに集めました。そしてニセアカシヤ・ユズリハ・キョウチクトウをみせました。飼育係も、ニセアカシアの毒には驚（おどろ）いていました。木の葉にはじゅうぶん注意するように頼みました。

●七月十八日（木）名古屋コーチンの登場

五年三組の植村さんが、大きな箱を重そうに抱えてきました。中を見てびっくりです。態度も堂々とした立派な名古屋コーチンです。飼育係で、いつも学校のチャボのひなを育ててくれる植村さんのこと、きっと大切に育てていたのでしょう。牧場の中に入れると、ノッソ、ノッソと歩き始めました。チャボとはいっしょの行動ができないようです。体重十五キログラム。

みなさんへのおねがい

やぎの太郎・花子・もも子が死んでしまいました。どの子も、毒のふくまれた食べ物が原因のようです。特に木の葉が心配です。
野菜のほかは食べさせないで下さい。
よろしくお願いします。

えさについての『お願いかんばん』

●七月二十四日（水）　暑い夏、チャボもヤギもぐったり

きのう、四年生の小田一平君のお母さんから電話がありました。

「チャボがいますが、来て下さいますか。」

メスのチャボがいました。学校のチャボではないですが、困ってみえたのでつかまえようとしました。三十分ほどがんばりましたが、チャボの逃げ足が速く、すぐに木や草の下に入ってしまい、つかまりませんでした。

きのうのチャボを、一平君がつかまえて学校へ持ってきてくれました。メスの強みで、牧場に入れてもいじめられ

ません。他のオスからプロポーズされているようです。この日もう一羽のチャボが仲間入りしています。かわりにオスニ羽、メス一羽が他の家に行きました。ごん太は名古屋コーチンをしたがえて、牧場の日陰（ひかげ）を探して歩いています。でもちょっと動くとダウンして、ぐったりしています。

●九月二日（月）　まだまだ暑い9月

二学期の始業式、四人のお友達、二人の先生が上地小学校にやって来ました。「ふれあい牧場」には、白いチャボがやけに多くなりました。これらはチャボではなくニワトリなのですが。

それから、あの人気のあったマドンナがいつの間にかいなくなってしまいました。チャボの数を確かめてみますと、メス五羽（黒三・クリーム一・まだら一）、オス七羽、だいぶ大きくなったひな一羽です。名古屋コーチン（大きくてゆうゆうとしているやつ）のオス一羽、白色レグホンこと）ニワトリのオスは、長老をはじめとして四羽です。なかなかにぎやかです。

二羽のメスが卵を温めているので、そのうちに生まれそうです。ではごん太はというと、すこぶる順調です。夏休みが終わる前に、南動物病院の院長先生に予防注射もしていただきました。いつもいつもありがとうございます。

子どもと．ごん太．コーちゃんとのふれあい

●九月十九日（木）長老が死んでしまったって？

台風十八号接近。学校に着くと、いきなり三年生の女子

「先生、白いチャボが死んでる。」

「そんな時はどうしたらいいの？」　「ううん・・・・・・。」

ダンボールに入った鳥のしっぽの部分を見てみると、やはり短いのです。長老に間違いなさそうです。長老は二日前校長先生の通信に主人公として登場してきたばかりです。しばらくの間、職員室ではその話でもちきりです。

「白いなべでいじめていかんかったなあ。」

「いつもはずうずうしいのにちょっとさびしくなるなあ。」

「校長先生の話も完結してしまいますねえ。」

「上ぐつをつついてはちらかしていたのがなつかしい。」

いやな報告が続けてありました。

「まだ死んでるよ。」

というわけです。見に行ってみると、あわれ白いにわとりがニ羽、何かにおそわれたような状態で死んでいました。中でも一羽は首から上がありません。目が落ちていました。とさかも落ちていました。雨がずいぶん降っていましたが、このままではざんこくなので、土の中にそっと埋めてやりました。

ところが・・・。しばらくすると、どこかでコケコッコーとややかすれた鳥の声が聞こえました。方向はサンクガ

ーデンの方からです。窓からのぞいてみますと、レンガの花壇のところに、一羽の白い鳥がいます。死んだはずの長老が花壇の土をつついているのです。一瞬（いっしゅん）我を疑いましたが、やはり長老のようです。それを確かめる方法がひとつあります。それは、白いなべを見せて、すぐに逃げてしまうようなら、それは長老です。さっそく教頭先生がなべを持って行きました。頭の方へなべを近づけると、反応はばっちりです。長老だということが実証されました。何だかほっとしました。なぜこんなことになったかというと、ほかの三羽と違って、長老は自分で小屋に入り体を休めるからです。

●九月二十六日（木）　おれはチョウロー

校長先生のおたより「おれはチョウロー」（危機一髪の巻）が発行されました。この話のおもしろさは格別で、一年生や二年生の子には大人気です。夏目漱石「わがはいは猫である」のようです。いつもぎょうぎの悪い一年ぼうずも、目をかがやかせて聞いています。これで終わりというのはとても残念です。（その二「けんかのもと」も発行された）

●十一月七日（水）小屋の柱がもう建ち始めました

基礎工事のセメントがかわいてきたので、成瀬建築さんのご厚意により、いよいよ小屋作りが始まりました。近くの教室の子供たちは、せまくなった牧場のさくを見て気にしています。

今日は、正門の記念碑も基礎工事です。石屋さんが大きな長方形の石をていねいに敷（し）いていきます。この上

に建つ記念の像を想像しながら、慎重に進めていました。

●十一月十一日（月）人間でもじゅうぶん生活できそうです

先週の月曜日に工事に取りかかりましたが、二日ほど雨が降りました。しかし、順調に工事が進み、飼育小屋はほぼ完成です。ペンキは木の良さを考えて学校で、クレオソートをぬります。池のコイたちはそろそろ食欲（しょくよく）がなくなります。えさをやりすぎてはいけません。ごん太はさすがに寒さに強い。何といったって毛皮のコートを着ているんだから。

●十二月五日（木）『ふれあい牧場』にフェンスができあがりました

午後2時過ぎに、以前バレー少年団の後藤さんと石原鉄工さんが来て、取り付け工事の始まりです。

「すごい重いしっかりしたフェンスですねえ。」

電気溶接（ようせつ）をして、フェンスを固定して下さいました。

完成間近な飼育小屋